



にじじ

特集

第5回
高知医療センター開院10周年企画
～診療現場の「今」と「これから」～
放射線科/形成外科/耳鼻咽喉科

..... P2~6

新任紹介

「わたし、がんばってます」

..... P7

■ 高知医療センター・イベント情報 P 8

2

FEBRUARY 2015 Vol.112



1/10「地域がん診療連携拠点病院 公開講座・特別講演会」での、(写真左より) 消化器内科医長の根来裕二氏、副院長兼腫瘍内科科長の島田安博氏、がんセンター長の森田荘二郎氏の様子。

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —

第5回

高知医療センター 開院 10周年企画
～診療現場の「今」と「これから」～

放射線科

文責：放射線科 医療局次長 松坂 聡

放射線科科長
野田 能宏



放射線療法科科長
秦 康博

医療局次長
松坂 聡

がんセンター長
森田 荘二郎

放射線科では

当院では、放射線科医は放射線科と放射線療法科のいずれかに属しており、画像診断（CT、MRI、核医学、消化管透視、超音波検査など）、IVR、放射線治療を行っています。

放射線科では画像診断を行っています。この重要な部分を占めるのが読影です。読影とは画像を詳しくみて、主治医の依頼に対して、診断報告書を作成する作業のことです。

放射線科の日常診療では、CT 検査、MRI 検査、核医学検査を主に行っており、院内の各診療科の主治医より依頼のあった検査を行い、読影を行って結果をお返しし

ております。

読影の結果を記載した診断報告書には、画像所見、異常の有無、考えられる病名、鑑別診断、あるいは、さらに検査を追加する必要があるのかなどを書くことになります。

院内だけではなく、医療機器の共同利用という形で、地域の医療機関から画像検査の紹介があれば、同じように検査をして診断報告書をお返ししております。

他院より紹介された患者さんが持参した画像についても、要望があれば診断報告書を作成しています。

診療実績

高知医療センターの開院は、2005年（平成17年）3月1日です。2015年（平成27年）2月末でまる10年となります。

放射線科と放射線療法科合わせて、開院当初2005年には放射線科専門医3名でした。2007年には4名、2011年から5名になりました。1名が放射線治療、1名IVR、ほかの人が診断報告書の作成にあたります。

CT装置は当初2台で、2013年度より320列CTも導入され3台となりました。技術の進歩により、新しい検査も加わり、検査件数は年々増加傾向にあります。

MRI装置は当初1台で、2013年度より2台になり、検査件数は同じく増加傾向です。

核医学検査では、2008年度からSPECT-CTが導入され

ています。検査件数は少し減少したかたちですが、現在は当院にないPET検査への移行が一番影響しているようです。

また、医療機器の共同利用ということで、地域の医療機関から画像検査の紹介があれば、検査をして、診断報告書をお返ししております。紹介元の医療機関が限られる核医学検査は少なくなっています。CT検査は増加しており、MRI検査の増加が最近目立ってきています。

患者さんが持参した画像の診断報告書の件数も増えつつあります。

放射線科では、開院以来、現在まで、当院で行われる全てのMRI、CT、核医学検査の検査報告書を作成してきました。その読影件数は年々増え続けています。

○年度別検査件数○

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
CT検査件数	13,406	15,063	15,487	15,752	16,831	18,529	18,790	19,307	20,640
MRI検査件数	4,917	5,090	5,641	6,457	7,094	7,549	7,790	8,020	7,880
RI検査件数	1,592	1,875	1,528	1,277	1,257	1,154	1,139	1,140	1,222
合計	19,915	22,028	22,656	23,486	25,181	27,232	27,719	28,467	29,742

○年度別機器共同利用件数○

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
CT検査件数	132	175	178	204	173	158	137	157	199
MRI検査件数	38	40	51	34	28	40	27	112	185
RI検査件数	56	83	98	98	101	82	78	35	27
合計	226	298	327	336	302	280	242	304	411

○年度別取込み画像読影件数○

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
件数	4	0	0	0	286	418	462	427	620

今後

平成26年度末から27年度にかけてMRIが造設され、予約待ちの短縮や新たな検査が期待されます。

平成29年にはがんセンターが別棟で建つ予定で、放射線部門では、核医学検査と放射線治療がはいります。

核医学検査では、需要が高まっているにもかかわらず現在県内では高知大学でしか行われていないPET検査が医療センターでもできるようになります。

形成外科

文責：形成外科 科長 原田 浩史



形成外科専修医
毛山 剛

形成外科科長
原田 浩史

形成外科医長
五石 圭一

開院以来、科長、卒後 10 年程度の医師、3～4 年目の医師と 3 人体制で診療、手術に当たっています。2014 年からは原田浩史、五石圭一、毛山剛の 3 名が担当しています。

少ない人数ですが患者さんのニーズにできるだけ答えられるよう、外来診療は基本的に毎日行っています。入院病棟はマイナー科の常として、他科のすきまを埋めるため 10 年間で数度、主病棟の移動を余儀なくされています。

高知医療センター開院後ほぼ 10 年ということで、形成外科の紹介ならびにこれまでの診療実績、現状を報告し、開院当初と比べて変化したことをあげてみます。そのうえで今後当科がどのような形で、当院のみならず高知県の医療に関わるべきかを考えてみました。

手術実績、現状

形成外科に割り当てられている手術枠は週 2 日で開院当初から変わらず、単純計算で午前、午後にかけて 1 日 2 件の手術をこなしても年間 200 件余りが精いっぱいになります。手術日はできるだけ全身麻酔手術を 3 件おこない、局所麻酔手術は外来処置室に設置している手術台でおこなうことで年間 600 件程度をこなしています。

手術内容は多岐にわたり、頭部からつま先まで全身が

手術対象部位となります。熱傷や外傷、顔面や四肢の先天異常、皮膚腫瘍、手術や外傷に伴う組織欠損に対しての再建手術、瘢痕、難治性皮膚潰瘍などに対して治療を行っています。

開院以来手術件数、内訳に大きな変化はありません。手術実績を示します。

この 10 年で変わったこと

手術件数、内訳はかわらないものの、治療内容は大きく進歩しています。特に創傷処置に関する機器、創傷被覆材は 10 年間で大きく変わり、それに伴って治療法そのものが変わりつつあります。

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
熱傷	20	9	18	20	17	9	5	22	18
顔面骨折	15	29	36	34	26	52	42	35	35
顔面軟部組織損傷	108	163	130	119	110	133	120	97	112
口唇口蓋裂	6	4	12	6	16	21	19	7	6
手足先天異常	1	4	2	12	10	5	18	9	13
手足外傷	43	75	75	45	45	75	106	138	97
その他先天異常	3	13	16	8	17	26	20	12	30
良性腫瘍	83	95	79	62	67	146	132	118	133
悪性腫瘍	21	20	26	17	25	22	36	45	28
瘢痕	16	33	26	32	30	28	21	15	13
潰瘍	53	107	90	129	80	92	80	81	79
その他	42	54	40	57	70	26	26	42	14
計	411	606	550	541	513	686	625	621	578

※2005年…(3月-12月) データ

● 陰圧閉鎖療法

褥瘡や下腿潰瘍などの慢性創傷あるいは外傷などで生じた急性創傷に対して、創を陰圧環境におくことで創傷治癒を促進させる方法です。2010年に国内で初の陰圧システムのデバイスが医療機器薬事承認されて以来複数の製品が開発され、当院でも症例によって使い分けることによって従来治療困難であった難治性皮膚潰瘍の治療が可能となっています。

● 創傷被覆材

創傷を湿潤環境におくことで創傷治癒が促進されるという考え方は現在では常識となっていますが、この考え方が浸透してきたのがまさに10年前といえます。したがってハイドロコロイドなどの以前からあった被覆材に加え、銀を含有した抗菌作用のある被覆材、適度な固着性を有するシリコン素材の被覆材、吸水性にすぐれたフォーム材など、様々な製品が開発、販売されるようになりました。それぞれの製品の利点を生かし、または組み合わせたり外用剤と併用することで、創の管理は10年前とは比較にならないくらい優れたものとなってきたと言えます。

● 乳房再建

組織拡張器、インプラントといった人工物による乳房再建が2013年から保険適用となりました。人工物を用いた乳房再建そのものは10年以上前からありましたが、自費診療であったため行うには敷居の高い方法でした。自家組織を犠牲にしない乳房再建なのでそのメリットは大きいと考えます。

● ハイブリッド手術室

2014年に当院11番目の手術室として、ハイブリッド手術室が開室しました。術中の血管造影を行う目的の設備ですが、術中にCT検査ができるため、当科では直視できない顔面骨折の手術中の整復を確認する目的にこの設備を使用しています。

● 自家培養表皮

広範囲熱傷などの治療において自家培養皮膚移植は夢の治療と言えますが、現実にはまだまだできそうにありません。表皮のみの培養は以前からいろいろな施設で研究され、臨床に使用した症例も報告されていたところ、2009年に国内初の再生医療ビジネスと言える自家培養表皮製品が保険治療として認可されました。自家皮膚移植のための経皮部が少ない広範囲熱傷患者さんにとって福音となっています。

● 神経再生誘導チューブ

断裂した末梢神経の再生をうながす神経再生誘導チューブが2013年に製品として発売されるようになりました。指神経にかぎっての認可ですが、近い将来顔面神経などでの使用が期待されます。自家遊離神経移植にかわる治療となる可能性があります。

● 顕微鏡の進歩

マイクロサージャリーにおいては、吻合血管が開通しているかどうかすべてと言っても過言ではありません。しかし顕微鏡下に見ても判断に困ることが多々あります。2014年に当院で購入した顕微鏡ではICGを利用した造影が可能で、吻合部での血流の有無が直視できるようになりました。これによって手術の時間短縮、成績の向上が得られています。さらにリンパ管静脈吻合などのより微細な手術にも応用可能となっています。



ハイブリッド手術室

今後われわれは高知県の医療に どうかかわっていくべきか

前述のように10年前には存在さえしていなかったデバイスや診療材料、機器などが次々と採用され、診療内容や成績に大きな影響を与えています。われわれの目指す質の高い創傷管理、犠牲の少ない再建が少しずつではあるが進歩している実感もあります。

高知県では形成外科専門医は10数人で、診療科を開設している医療機関も数えるほどしかありません。10年前

よりはましですがまだまだ一般の方のみならず医療関係者への認知度が高いとは言えません。研修医や医学生への教育に力を入れ、形成外科の仕事を理解し利用していただける医師を育成することが医療機関の、ひいては高知県の医療レベルをあげることにつながると信じて、次の10年に向けてすすみたいと考えています。

耳鼻咽喉科

文責：耳鼻咽喉科 医長 土井 彰

耳鼻咽喉科では常勤4人と1人の非常勤医師が主となり診療に当たっています。



当院は開業医でできることは基本的に開業医の先生にお任せしています。従って手術や特殊検査を中心に診療を行っています。手術や検査終了後は、紹介された医療機関での診療をお願いしています。

10年間の歩み

我々は、医療技術の進歩に合わせて手術手技も進歩させてきました。具体的には、副鼻腔の周囲には薄い骨を隔てて眼球や脳組織があります。副鼻腔の手術の際、鼻腔内から内視鏡を用いて手術をする（内視鏡下鼻内副鼻腔手術）ことが多いのですが、眼球や脳組織を傷つけないよう、安全に手術ができるようにナビゲーションシステムを導入しています。

口蓋扁桃摘出術では、手術中の出血量を少なくすることや、術後の疼痛を軽減するためにコプレーターという器具を導入しました。

下咽頭癌が小さければ、口から内視鏡を用い比較的侵襲が低いELPS（直達鏡を用いたESD手技）という手術方法が可能となりました。

また他科との連携も重視しています。癌の手術では、再建手術を形成外科や消化器外科医師等と共同で行うこともあり、このような手術の際には密に手術方法を相談しています。

めまい患者さんの検査として、重心動揺計を新しくし、新たにVEMPという検査を導入しました。

	2005-2007年	2008-2010年	2011-2013年
手術総数	805	873	890
耳 (うち鼓室形成術)	91 (57)	110 (71)	100 (70)
鼻 (うち内視鏡下副鼻腔手術)	214 (172)	180 (168)	178 (164)
口腔咽頭 (うち口蓋扁桃摘出術 アデノイド切除術)	202 (173)	234 (196)	324 (276)
唾液腺	51	52	67
咽頭	76	96	92
頸部	218	201	129
上記のうち 頭頸部悪性腫瘍手術	74	80	104

現在の課題と今後の展望

平成25年に日本耳鼻咽喉科学会が5歳ごとの耳鼻科医師数を調査しました。それによると20代の耳鼻科医師は他の(5歳ごとに区切った)世代の半数しかいないことが分かりました。現在の病院機関(診療所でなく)は30代の医師が主力となって支えています。病院機関に勤務する

耳鼻咽喉科医師は今後全国的に減少していくのは必定です。その流れにあっても、耳鼻咽喉科としての医療レベルを上げていくことが求められており、それが我々の課題であると思っています。と同時に若い世代の医師を耳鼻咽喉科として獲得していきたいと考えています。



石田 彩子
ayako ishida

麻酔科

麻酔科という、主に手術室を仕事場とする特殊な職業ですので、地域医療を支える先生方とは直接お目にかかることも少ないかと思いますが、このような機会をいただきましたので、ご挨拶をさせていただきます。

◎日々鍛錬

先にありますように私は高知医療センター麻酔科で後期研修医として勤務しております。当院の手術室は症例数も多く、若手麻酔科医としては十分な経験を積める場だと思っております。ハイリスク症例などは諸先生方の助言をお借りしながら、患者様がより安全でより快適な麻酔を受けられるよう努力しております。

◎2足のわらじ

私生活のことを申しますと、私には2歳の娘がおります。仕事で疲れて帰宅後に家事と育児をするのは疲れるなーと感じることもありますが、子供の言動、特に笑顔には癒やされるので、それが次の日も仕事をがんばれる原動力になっているのかなと思います。

最後になりますが、大学卒業後5年目とまだまだ経験も浅いので、どこかでお目にかかることがありましたら、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。



毛山 剛
tsuyoshi keyama

形成外科

私は平成26年4月から高知医療センター形成外科に勤務となりました。

形成外科では主に、切断指や顔面骨骨折などの外傷や、熱傷、褥瘡や糖尿病潰瘍などの難治性潰瘍、口唇裂や多趾症等の先天奇形、また皮膚悪性腫瘍や乳癌切除後の再建などの治療に取り組んでいます。

私は主に、救急外来での創傷に対する縫合や、難治性潰瘍に対する治療に取り組ませていただいています。顔面の傷で受診された方を、少しでも痕が残らないように、傷痕がきれいになるように誠心誠意対応させていただきますのでよろしくお願ひ致します。



木村 次郎
jiro kimura

小児外科

小児外科の木村次郎と申します。愛媛県出身で、岡山大学を卒業し、現在後期研修医2年目です。まだ経験が少ないかもしれませんが、精一杯頑張りますのでよろしく御願ひします。

現在外科学会の専門医の修練中です。少しでも早く1人前になれるよう日々頑張ります。微力ながら先生方と協力させていただき、多くの患者さんの健康を守っていただければと思いますので、よろしく御願ひ致します。



都築 たまみ
tamami tsuzuki

婦人科

2014年10月1日より医療センター産婦人科で勤務しています。

高知市出身で2007年に高知大学を卒業し、高知大学医学部附属病院で卒後臨床研修を行い、2009年4月に高知大学産婦人科に入局しました。一応、産婦人科専門医を取ったとはいえ、まだまだ未熟者ですので、自分の至らなさを痛感しつつも、知らないこと・できないことに出会うたび、他の先生方やスタッフの皆さんに助けをもらいながら、それらを少しずつ自分のものにしていく楽しさや喜びも感じながらの日々です。

患者さんに満足していただける医療を心掛けていきたいと思ひます。至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることがあるかと思ひますが、その時はご指導いただければ幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。



清水 基之
motoyuki shimizu

歯科口腔外科

初めまして。歯科口腔外科の清水基之と申します。出身地は大阪で、広島大学を卒業し神戸市立医療センター中央市民病院で卒後研修を行い、2014年4月より後期研修医1年目として赴任しました。

現在、口腔外科専門医を取得すべく、立本科長指導の下、日々の臨床と勉強に励んでおります。

趣味はテニスと自転車ですが、誘いがあれば何でもやってみたい性格なのでお誘いの程よろしくお願ひします。

まだまだ若輩者で未熟な点が多いかと思ひますが、御指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



松本 学
manabu matsumoto

検査診断科

大学卒業後8年間の外科修行を積んだあと、病理に転向し14年が過ぎました。現在、高知医療センターには、私を含め2名の病理専門医がおり、年間6500件程度の生検・手術材料に対応しています。欲を言えばあと1名の病理専門医が欲しいところですが、現在の日本における病理専門医数の絶対的不足の深刻さを考えると、贅言は言っていられません。今のところ専門分野は特になく、信頼されるgeneralistを目指して奮闘中です。

月	日	曜	高知医療センター イベント情報 2月～			
2月	5	木	医療安全について (参加費不要・事前申込不要)			
			内容	「医療安全について」	場所	高知医療センター 2F くろしおホール
			時間	18:00 ~ 19:30	対象	医療関係者
		講師	九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座 准教授 九州大学病院長補佐 鮎澤 純子 氏			
		お問い合わせ: 高知医療センター 医療安全管理室 西村 088(837)3000				
	7	土	高知医療再生機構 小児科専門医支援養成事業 講演会 (参加費不要・事前申込不要)			
			内容	「学校検診を学ぶ 第2回」 「学校心臓検診 見逃してはいけない病気とその管理」	場所	高知医療センター 2F くろしおホール
			時間	15:00 ~ 16:00	対象	医療関係者
		講師	鹿児島医療センター 小児科部長 吉永 正夫 氏			
		お問い合わせ: 高知医療センター 小児科 西内 律雄 088(837)3000				
	8	日	平成27年 医療セミナー (参加費不要・事前申込不要)			
			内容	「医療小説新時代」	場所	高知医療センター 2F くろしおホール
時間			13:00 ~ 14:00	対象	一般	
	講師	書評家 大森 望 氏				
	お問い合わせ: 高知医療センター 医療局 福井 康雄 088(837)3000					
14	土	第33回 高知医療センター 地域がん診療拠点病院公開講座 (事前申込不要・参加費無料)				
		内容	I: 「肺がんについて」 II: 「肝胆膵外科治療の最前線」 III: 「知っておきたい三つの血液がん」	場所	高知会館 3F 「飛鳥」	
		時間	14:00 ~ 16:30	対象	一般	
	講師	I: 呼吸器内科 科長 浦田 知之 氏 / II: 消化器外科 医長 岡林 雄大 氏 / III: 総合診療部 部長兼科長 血液内科・輸血科 科長 上村 由樹 氏				
	お問い合わせ: 高知医療センター 経営企画課 088(837)3000					
15	日	高新・高知医療センターがんセミナー2014 (事前申込要、参加費要)				
		内容	「卵巣がんの現状」	場所	高新文化教室 (RKC 高知放送南館3階 37号室)	
		時間	10:30 ~ 12:00	対象	一般 (定員: 40名)	
	講師	高知医療センター 婦人科 科長 木下 宏実 氏				
	主催: 高新新聞社、高知医療センター 協賛: アフラック高知支社 主管: 高新新聞企業 お問い合わせ: 高新文化教室 088(825)4322 (受講料 9,850円 / 全12回、1,500円 / 1回)					
3月	7	土	平成26年度 高知呼吸器カンファレンス (参加費無料)			
			内容	I: 「症例から学ぶ③」 症例提示 II: 「特別講演」 肺がんCT検診の現状と今後	場所	高知医療センター 2F くろしおホール
			時間	16:30 ~ 18:30	対象	医療関係者
		講師	I: 1. 高知医療センター 呼吸器外科・2. 同 呼吸器内科 / II: JA長野厚生連 小諸厚生総合病院 放射線科部長 臨床画像センター長 丸山 雄一郎 氏			
		お問い合わせ: 高知医療センター 呼吸器外科 岡本 卓 TEL:088(837)3000				
	13	金	褥瘡対策勉強会 (事前申込不要・参加費無料)			
			内容	「創傷管理 (創傷治癒の基礎から、足潰瘍・褥瘡について)」 ~創傷被覆材の解説と適応など~ (仮)	場所	高知医療センター 1F 研修室 (1・2・3)
			時間	18:00 ~ 19:30 (予定)	対象	医療関係者
		講師	徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 形成外科教授 橋本 一郎 氏			
		お問い合わせ: 高知医療センター 褥瘡防止委員会 恒石 TEL:088(837)3000				
	15	日	高新・高知医療センターがんセミナー2014 (事前申込要・参加費要)			
			内容	「緩和ケアの役割とは」	場所	高新文化教室 (RKC 高知放送南館3階 37号室)
時間			10:30 ~ 12:00	対象	一般 (定員: 40名)	
	講師	高知医療センター 緩和ケア内科 科長 原 一平 氏				
	お問い合わせ: 高新文化教室 088(825)4322 (受講料 9,850円 / 全12回、1,500円 / 1回)					

編集後記

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

インフルエンザが流行っていますが皆様、いかがお過ごしでしょうか。「にじ」2月号をお届けします。今月号の特集は開院10周年企画の第5弾として、これまで科としての活動状況を「にじ」紙上ではあまりお届けできていなかった放射線科、形成外科、そして耳鼻咽喉科です。10年という大きな括りにはなりましたが、今後の展望も含め、是非、お目を通してください。そして来月は開院10周年企画のトリを飾るべく、取って置きの診療科の10周年記事を第6弾として掲載予定です。ご期待ください。(深田順一)



平成27年2月1日発行
にじ 2月号 (第112号)
毎月発行
編集者: 深田 順一
発行者: 武田 明雄
印刷: 株式会社高陽堂印刷
発行元:
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL: 088 (837) 3000 (代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp